

中部徳洲会病院

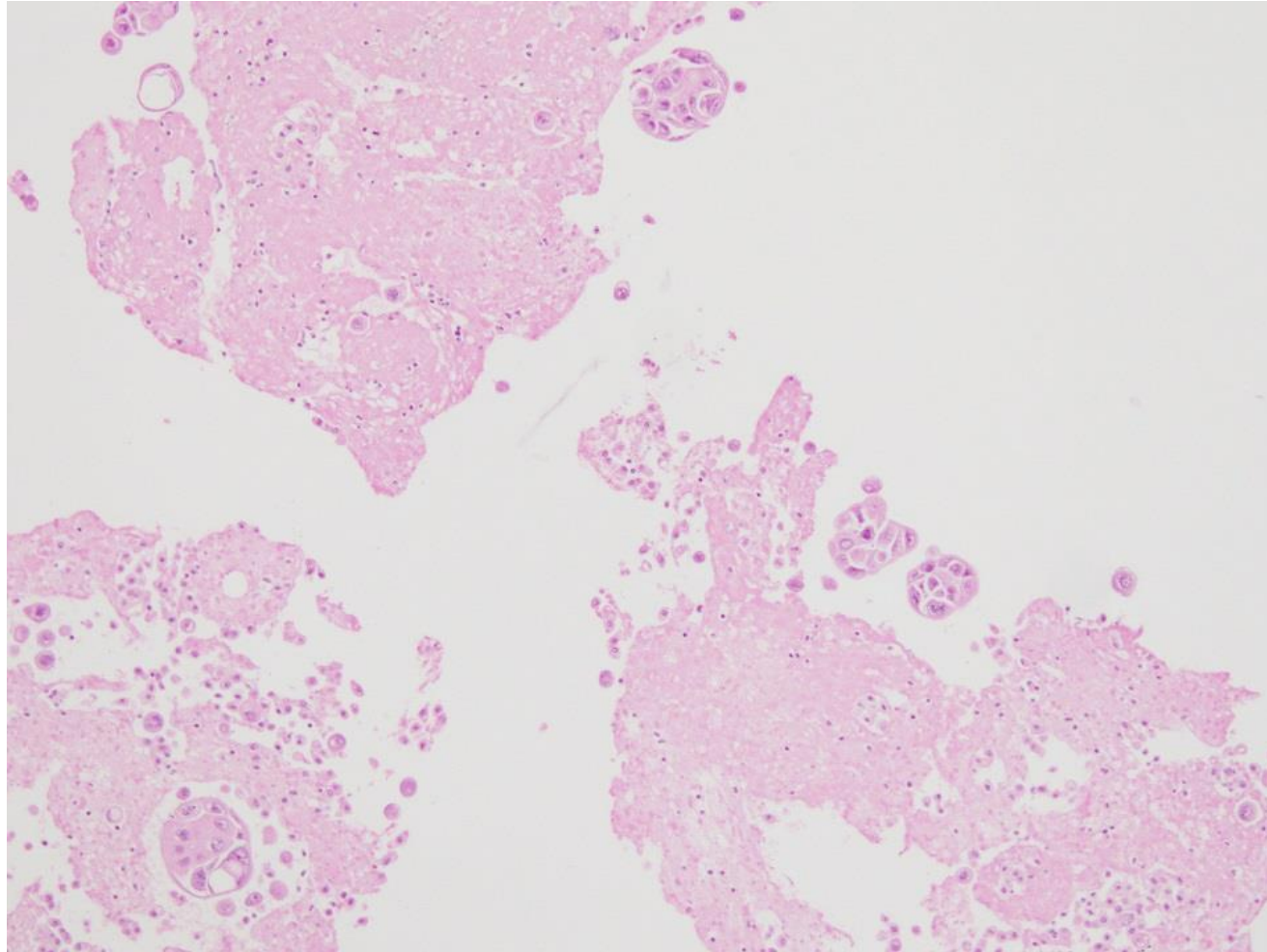
症例番号3

1、細胞診判定：Class V 扁平上皮癌

細胞所見

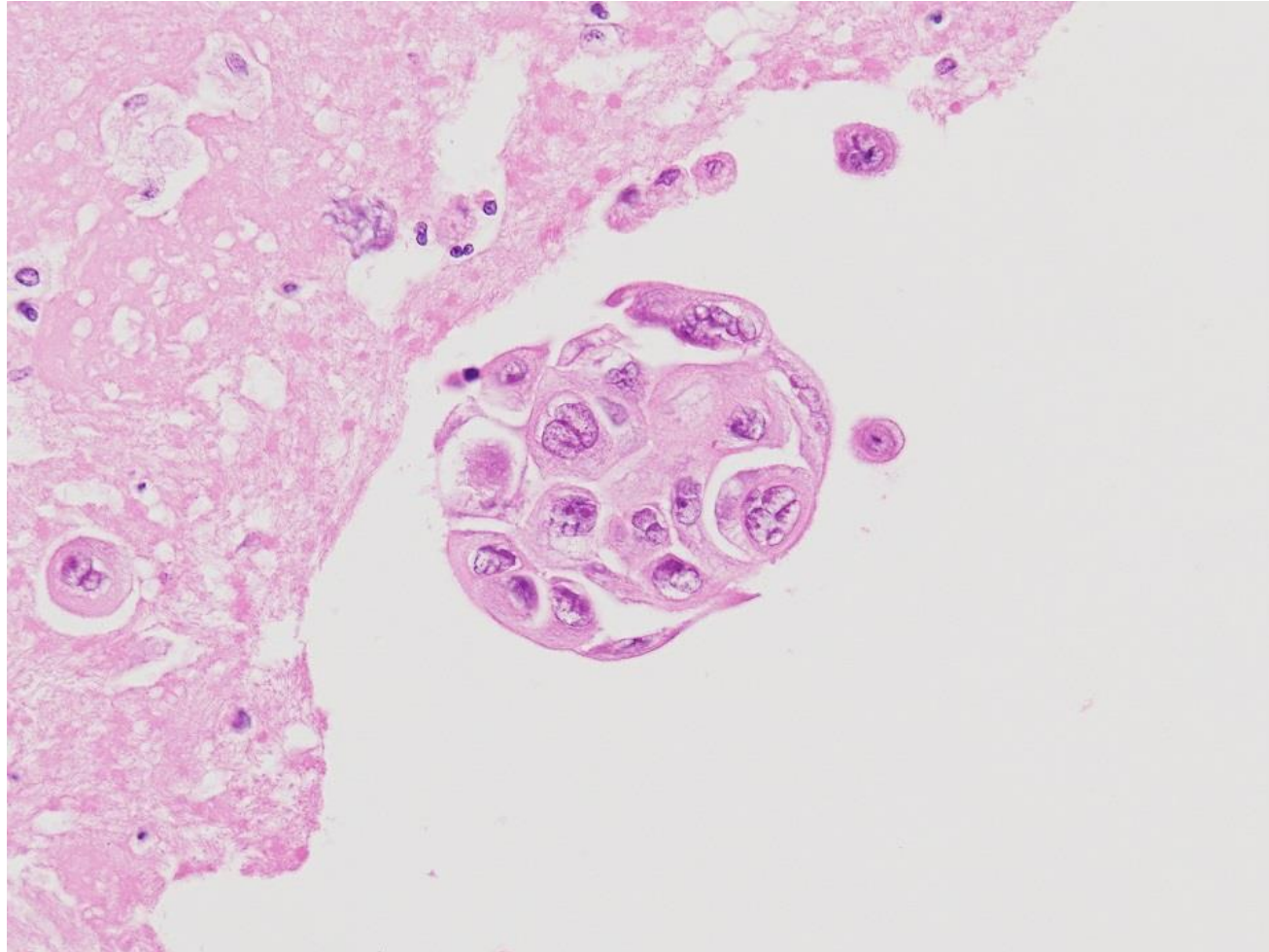
血性背景のなか、核腫大した異型細胞を孤在性から集塊状に認めます。核は中心性でN/C比が高く、クロマチンは細顆粒状から顆粒状に増量を認め、核形不整や多核も認められます。一部に、化学療法による空胞変性した細胞も認めます。

セルブロック HE染色 ×10



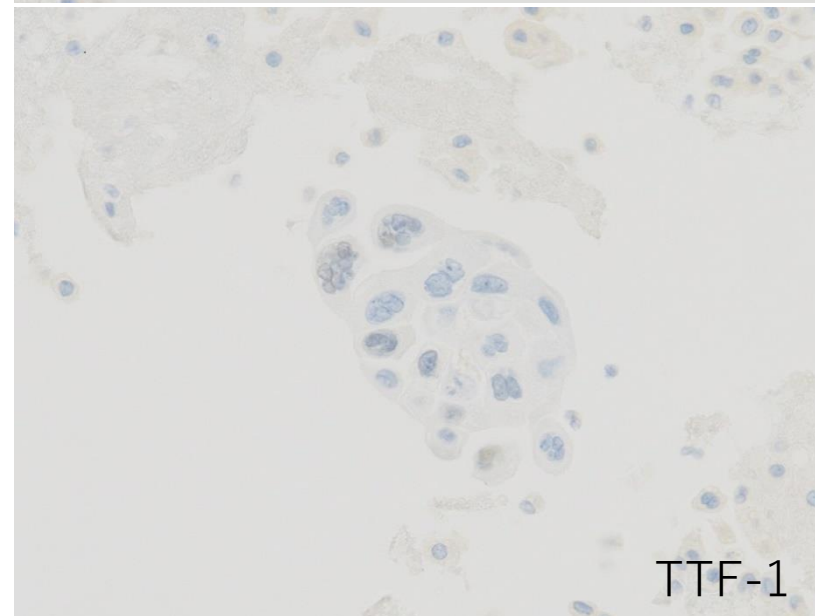
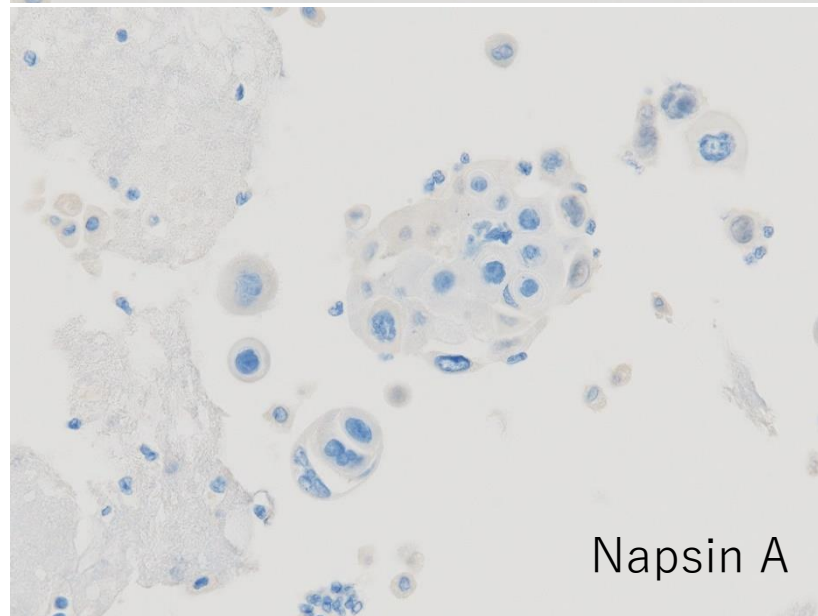
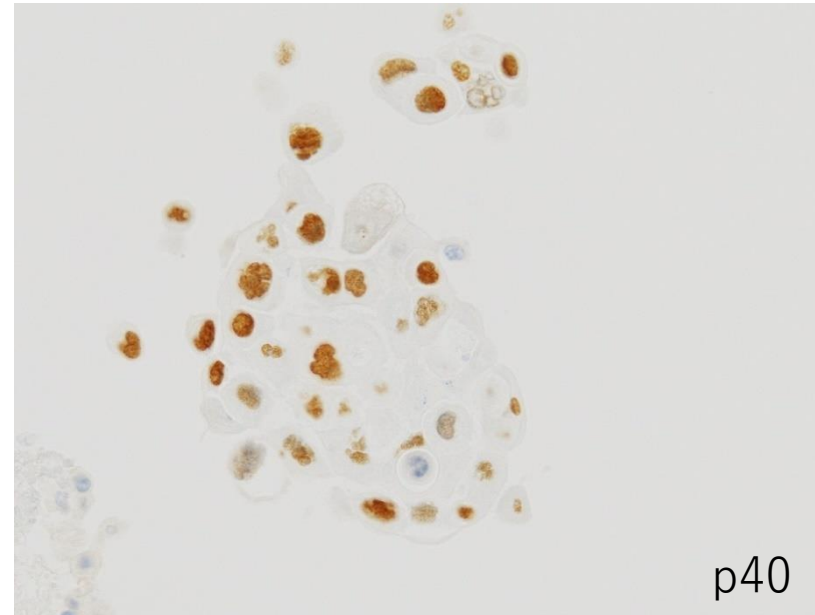
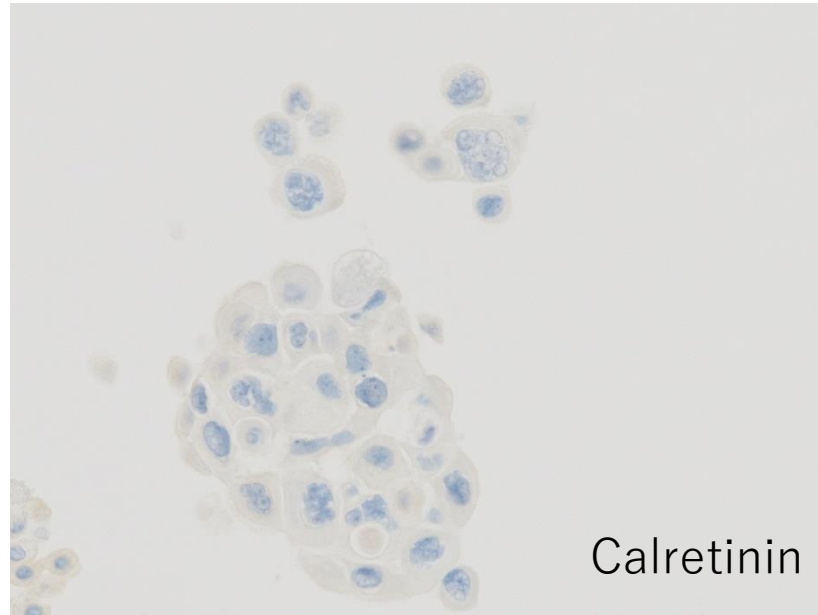
核腫大した異型細胞を小集塊状に認めます。

セルブロック HE染色 ×40



異型細胞の胞体は厚く、核は中心性で核形不整や多核も認めます

セルブロック 免疫染色 ×40



Calretinin	—
p40	+
Napsin A	—
TTF-1	—

まとめ

- 異型細胞は胞体が厚く、核は中心性でクロマチンの増量、核形不整、多核を認めます。
- 免疫染色にて、Calretinin、Napsin A、TTF-1は陰性、p40が陽性で扁平上皮癌と考えます。
- 可能であるなら、セルブロックを作製し、免疫染色にて組織型を確認することは重要と思います。